平成２９年度　第４５回「キワニス社会公益賞」受賞者功績調書

氏　名	わきさか　ちとみ 脇坂 智富	生年月日	昭和 40（1965）年 2 月 13 日（52 才）
現 住 所	〒727-0114　広島県庄原市口和町	職　業	会社員
経歴概要	平成 5 年　三次市要約筆記サークル「うかい」設立、現在に至る 平成 24 年　広島県要約筆記サークル連絡会　会長（～平成 26 年 3 月） 平成 25 年　三次市ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｸﾞﾙｰﾌﾟ代表者連絡協議会　会長、現在に至る 平成 25 年　三次市被災者生活サポートボラネット推進会議委員、現在に至る 平成 25 年　広島県民ボランティア活動推進会議サブアドバイザー就任（～平成 28 年 3 月） 平成 25 年　ボランティア交流サミットひろしま 2014 実行委員会委員 平成 25 年　ボランティア交流サミットひろしま 2015 実行委員会委員		
功績概要	聴覚障害者と同じ職場になったことで、当初、手話サークルに所属し手話でコミュニケーションをとっていた。その活動のなかで、手話が使えず文字通訳を必要としている人が意外と多いことに気付かされたことをきかっけに、手話サークルのメンバーと要約筆記活動を始め、2 年の準備期間を経て、平成 5 年三次市要約筆記サークル「うかい」を設立。現在に至るまで 20 年以上にわたって要約筆記者養成講座の運営等、ボランティア活動を継続している。 平成 25 年からは、広島県民ボランティア活動推進会議のサブアドバイザーとして、県内近隣市町域でのボランティア活動者の交流会の企画・実施に積極的に関わり、特に、平成 25 年・26 年は、県域のボランティアが集う「ボランティア交流サミットひろしま」の実行委員会委員として企画・実施に取り組み、多分野の活動者とのつながりも大切にしながら県域のボランティア活動の促進に努めている。 現在では難聴高齢者からの依頼が増える傾向にあるが、聞こえる人も、聞こえにくい人も安心して地域で暮らせるよう、そのために身のまわりにある「音や声のバリア」をなくすための活動を継続しており、広島県難聴者・中途失聴者団体連合会をはじめ聴覚障害者団体や他のボランティア団体とも連携し、市域のみならず県域での要約筆記活動をとおして、障害者の社会参加の促進やボランティア活動者のつながりづくりに深く寄与している。		
表 彰 歴	平成 14 年 9 月 5 日　財団法人広島県身体障害者団体連合会感謝状 （三次市要約筆記サークル「うかい」代表として）		

平成２９年度　第４５回「キワニス社会公益賞」受賞者功績調書

氏名	沖田 泰夫（おきた やすお）	生年月日	昭和 8（1933）年 7 月 19 日（83 歳）	
現住所	〒739-0132 広島県広島市八本松町正力	職業	無職	
経歴概要	災害ボランティアとして長期間にわたり支援活動を継続している 主な活動歴 平成 19 年～　新潟県中越沖地震以降、新潟県の小千谷市社協を通じて家の周りや屋根上の雪かきの依頼があった際に新潟県（小国町等）を訪れ、活動している 平成 23 年～　東日本大震災の当初から毎年、岩手県、宮城県、福島県を訪問している。当初は家屋の解体、墓の修繕、溝の掃除という活動が多かったが、現在は、草刈り、山の木を切る等の依頼に応じ、活動をされている。長くて 3 か月間現地に滞在して活動している 平成 26 年～　広島市豪雨災害では、安佐北区災害ボランティアセンターの紹介で家屋の土砂撤去の活動をしていた 平成 28 年～　熊本地震の当初から熊本県益城町や御船町を訪れ、家屋の修繕や水道関係の修繕を行っている。昨年 12 月、今年 4 月にも再訪して活動している				
功績概要	活動開始年…平成 19（2007）年、活動歴………10 年 ● 災害が起きると、広島市ボランティア情報センターを通じて被災地の要望を聞き、現地を下見し、作業に必要な発電機やポンプ等の機材を自家用車に詰め込み、再度現地へ向かい、活動している ● 滞在期間は、最低でも１か月。長くて２～３か月被災地に滞在し、支援活動を行っている ● 機械整備や家屋の解体、補修、水道工事等一通り行うことができ、中でも東日本大震災の被災地には数多く訪れ活動している 気仙沼市では天井の張り替え作業を行った ● 新たに被災のあった地へ赴く前に、これまで関わった被災地を訪ねながら現地へ向かっている。細く長く支援を続けることを大切にして活動されており、沖田氏に感謝されている被災者が多くいる				
表彰歴	なし			